

太宰府の文化財

451

「国天然記念物指定100年」太宰府神社の樟

大正8（1919）年に「史蹟名勝天然記念物保存法」が制定され、令和元（2019）年で100年を迎えました。それに伴い、全国で史蹟・名勝・

年の節目となりました。今回は同時に天然記念物として指定され、本年度100年を迎える太宰府天満宮の樟について紹介します。

天然記念物が続々と指定100周年を迎え、本市でも昨年は大宰府跡と水城跡が、本年は国分寺跡と国分瓦窯跡が国の史蹟に指定されて100

太宰府天満宮は「天神の森」と呼ばれる51本の巨大な樟群を中心に緑豊かな社叢が広がり、四季折々の自然を感じるができます。その中で



太宰府天満宮の大樟（写真提供 写真家：榊 晃弘氏）



夫婦樟（文化財課撮影）

も一際目立つのが、本殿西の「大樟」と、本殿北にある「夫婦樟」です。大樟は樹高33m、幹周12.5mで、重量感のある優美な樹形を保っています。

夫婦樟は樹高18.1m、幹周9.8mで、大きく根上がりしているのが特徴です。いずれも樹齢1千年以上とされ、雄大な佇まいを我々に見せてくれています。「天満宮境内古図」という16世紀〜17世紀ころの天満宮境内の状態を示した史料では、本殿西側に「大楠号伊勢」と記されており、位置的に現在の夫婦樟のことだと考え

られます。およそ500年前から史料に記録されるほどに大きな樟だったことが分かります。

大樟と夫婦樟は大正11年3月8日告示の官報において「太宰府神社の樟」として国天然記念物に指定されました。「史蹟名勝天然記念物保存法」制定以後、第1回・第2回の天然記念物の指定は、特異な生態を持つものや特定の地域にだけ分布するような、学術的価値が高いものが対象となっていました。大樟と夫婦樟が指定された第3回からは、人がかわり守り続けた地域のシンボルともいえる巨樹・老木も指定されるようになりました。太宰府天満宮の樟が、この地域の象徴的な樹木として知られていたのだと推察されます。

千年という悠久の時を超えて現代の私たちにその姿を見せている2本の樟。訪れた際は、どんな時間を過ごしてきたのか、想いを馳せながらご覧ください。

文化財課

木村 純也

